

## 第2回 出雲市総合計画審議会 会議録

### 1. 開催日時

---

令和3年12月21日(火) 14時00分から16時00分

### 2. 開催場所

---

出雲市役所 6階 全員協議会室

### 3. 会議の出席者

---

#### (1) 委員 (17名)

三吉 庸善会長、吉田 美智子副会長

安喰 愛委員、板垣 成二委員、落合 のり子委員、河上 史子委員、北村 功委員、齋藤 茂子委員、高砂 明弘委員、田邊 達也委員、萬代 輝正委員、福島 沙織委員、堀江 泰誠委員、水師 幸夫委員、山崎 英樹委員、山根 善治委員、山本 富子委員

※欠席者5名(青山 博之委員、岡 彩子委員、金築 千晴委員、塩飽 邦憲委員、松林 亜希子委員)

#### (2) 出雲市

伊藤副市長

藤原総合政策部長、安食総合政策部次長、杉原政策企画課課長補佐、廣澤政策企画課係長、松浦政策企画課係長、濱村政策企画課主任、若手職員ワーキンググループ(陰山主任、今井主事、加藤副主任、片木副主任、神田副主任技師)

#### (3) 総合計画策定支援 委託事業者

(株) バイタルリード 代表取締役 森山、岩崎次長、森山主任

### 4. 次第

---

1 副市長あいさつ

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 次期出雲市総合振興計画策定に向けた取組状況 …資料1

(2) 「計画の構成、基本理念、市の将来像及び基本方策」(案) …資料2

(3) 市民満足度調査及び高校生アンケートの調査結果

● 調査結果概要版 …資料3-1

● 市民満足度調査結果 …資料3-2

● 高校生アンケート調査結果 …資料3-3

4 その他

(1) 委員からの意見 …資料4

(2) 今後の策定スケジュール

## 5. 会議経過

---

### 1 副市長あいさつ

#### 副市長

皆さんこんにちは。副市長の伊藤でございます。今年も残すところ10日余りになりましたが、皆様方には公私ともに大変お忙しい中、こうして第2回の出雲市総合計画審議会にご出席をいただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症も、国、県、市ともに比較的落ち着いている状況が続いております。第6波やオミクロン株も懸念をされておりますが、久しぶりにこの年末年始、帰省される方もおられるのではないかなというふうに思っております。また、初詣も以前のように、にぎわいを取り戻してくれるといいかなと思っております。

先立って、11月末に国勢調査の確定値が出ております。出雲市の人口は17万2775人で、山陰12市の中で唯一、人口増加しています。ほとんどの地方都市で人口減少が続いていますが、出雲は837人の人口増加という状況です。この要因として、新聞紙上では、外国人の社会増が主要因であるというふうに言われていますが、実は日本人の方の社会増についても、コンスタントに良い状況が続いていると思っております。今年の4月から11月までの住民基本台帳の状況では、日本人の自然減が432人、日本人の社会増が431人と、ほぼ拮抗しているというような状況ですので、外国人の増加だけがこの人口増加につながったとは思っておりません。

様々な形での定住対策、UIターン対策、働き場の創出対策というようなことが、このような結果になっていると思っておりますが、決してこの数字に安閑することなく、このような流れの時であるからこそ、将来を見据え、しっかりとした対策を打っていくことが必要であると思っております。

一方で、皆さんご承知の通り、中山間地域海岸部での人口減が続いています。二極化の対応もしっかり取り組んでいかなければいけないと思っております。

いずれにしても、住み慣れた地域で市民の皆さんが安心して住んでいただける地域をつくっていくことが定住対策や人口増につながると思っているところです。

本日、総合振興計画の核となります、基本理念や市の将来像、基本方策等についてお示しをさせていただき予定としております。たくさんのご意見を賜りながら、よりよい審議になりますようご期待申し上げます。私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 2 会長あいさつ

#### 事務局（安食総合政策部次長）

続いて三吉会長、一言ごあいさつをお願いします。

#### 三吉 庸善会長

年の瀬も近づいて参りまして、何かと慌ただしくお過ごしのことかと思っております。本日も大変にお忙しい中、第2回の審議会にお出かけをいただき、本当にありがとうございました。

冒頭、伊藤副市長から、出雲の人口について、日本人だけをとりても自然減と社会増がほぼ一緒ということを伺いまして、大変うれしく思ったところでございます。

この審議会も2回目でございます、だんだんと議論を深めていかなければならないと思っておりますが、それ以上に、何でも結構ですのでご忌憚のないご意見をいただきながら進めて参りたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

### 3 議事

#### 三吉 庸善会長

それでは早速、議題に入らせていただきます。

議題の1番目、次期出雲市総合振興計画策定に向けた取組状況及び関連いたします2番目の計画の構成、基本理念、市の将来像及び基本方針(案)について事務局から一括でご説明をお願いいたします。

#### 事務局(杉原政策企画課課長補佐)

- (1) 次期出雲市総合振興計画策定に向けた取組状況 資料1から説明
- (2) 「計画の構成、基本理念、市の将来像及び基本方針」(案) 資料2から説明

#### 三吉 庸善会長

ただいま、議事(1)次期出雲市総合振興計画策定に向けた取組状況についてご説明いただきましたが、議題の1番目と2番目につきまして、ご質問ご意見ございましたら何でも結構でございますので、ご発言をいただきたいと思っております。

#### 山根 善治委員

私は農業の出身です。先般、若手ワーキングが行ったヒアリングでは、農業関係のヒアリング先がない中、農業は大切だとおっしゃっていました。この整合性と、今後ヒアリングに行かれることがあるのかお聞きしたいです。

#### 事務局(杉原政策企画課課長補佐)

農業分野につきましては、山根委員様がこの審議会にいらっしゃいますので、関係団体の分野としてはチョイスしておりません。ですので、審議会の委員の皆様の分野外のところで、例えば、医療機関、金融機関、NPO法人等の団体をヒアリングさせていただきました。ぜひ、農業分野も、委員さんからもご意見いただいて、よりよい計画にしたいと思っております。

#### 吉田 美智子副会長

先般、Youtubeを拝見させていただきました。毎熊教授のコーディネートのもと、とても和やかな雰囲気様々意見が出たというように拝見いたしました。そこで印象に残っているのが、「今、気になるころ」で、若者の政治参加が少ないのではないかという意見です。このような市の総合計画に関わることによって、これも一つの政治への参加ではないかというようなコーディネートがあり、なるほどそうだなと感心したところでした。

そして、出雲らしいところ、そして出雲ならではの場所ということで伝承館を選んでいただきました。同様の形で最近使っていただくことが大変多くなり、私たちも使い方や伝承館の良さをSNSで広げていかないといけないと思ったところです。

そして、このYoutubeで若い方たちが生き生きと意見を述べておられる様子を見て、計画策定だけではなくて、実際に事業を展開される時も若い方の意見を取り入れながら事業展開ができると、自分たちも市を作っているというような気持ちになり、少しでも定住につながっていくのではないかなという感じを持ちました。感想です。

### **田邊 達也委員**

今、ご説明をお聞きしまして、非常にやわらかい、そして非常に将来明るいような雰囲気を受けました。構想であるため、基本的にはこういう姿勢は良いと思いますが、現実の状況を考え、そしてこの10年後を考えたときに、果たして本当にこういった表現でいいのかどうか。自分自身もわかりませんが、全く緊迫感も緊張感もないような感じを受けました。

実際に私は、土日はこの市内を回っておりますけれども、本当に厳しい状況を鑑みることが多いです。

表現というのは非常に大きいもので、学生さんや若い人が発言される机上の話は、本当に似ています。しかし、その地域は決して同じところは無いものですから、今後どう具体的に進めて施策に取り込んでいくかということが、我々の責任だなということを感じました。

### **山本 富子委員**

NPO法人で活動しておりますが、出雲市内でNPOネットワーク協議会のようなものを立ち上げようという動きがあります。この総合計画審議会の中でも、「NPOと協力して」、「NPO」という言葉が多々出てくるように思いますが、NPOの代表の委員さんがいらっしゃらないことを言っておられました。

もう一つ、田邊委員さんの方から緊張感も緊迫感もないと言われたのですが、先日、報道特集で宍道湖が大変な状況だということを見られた方はいらっしゃいますか。30年ぐらい前、1993年ぐらいですが、農薬被害を受け、生物がいなくなり、わかさぎやアマサギが採れなくなったと報道されていました。東京大学の山室真澄教授という方が宍道湖に滞在されて研究をされていたのですが、ネコチノイド農薬が一因ではないかということと言われ、その農薬は健康被害を及ぼすというような実験もされました。

その中では、佐渡島のトキの様子と、トキを育てるためにJAと協力をして農薬を使わない稲作を実現しているという内容もありました。出雲市もトキを飼育していますが、そういった部分もうまく絡めていけると思いますし、健康被害という面では、健康増進も言えると思います。今、「自然が豊か」ということを言われましたが、もう決して豊かではない、危ない状況です。宍道湖も、ラムサール条約にも登録されています。

今日いらっしゃる福島委員さんが2日前の新聞に載っておりましたが、UIターンで無農薬無化学肥料等を全く使わない農法で畑を始める・・・そういった方達もいらっしゃいます。そういったまちづくりをしていけたらなと思っています。

### **三吉 庸善会長**

お二方の意見について、事務局からコメントがありましたらお願いします。

## 副市長

吉田副会長さんがおっしゃった、政策への若手職員の関わりというお話がありましたが、今回、こういう構想の中で、次世代を担う様々な若い方に参加をいただきました。実際、市役所という組織の中で意思決定をしていきますが、なかなか若い人が直接政策決定に関わる部分は少ないと思います。しかし、先ほどおっしゃったように、これからは行政も多様な意見を聞き、世代を超えた様々な施策を展開していかなければならないことから、おっしゃったような点もしっかり加味しながら施策を検討していかなければならないと思います。

それから、田邊委員さんの緊張感という話がありましたが、もちろんこの基本構想はめざすべき姿であり、出雲市の将来像というのはこうあってほしいという部分があります。現実世界の様々な課題を無視したわけではありませんが、当然一定の夢の部分があります。それは、机上の空論ではなく、確固とした現実を踏まえたくて今ある地域課題を一つずつ解決することによって、こういう姿をめざしたいという基本的な考え方にありますので、決して今ある課題を無視して理想論を描くことではないと思っており、現実には財政の問題や様々な行政課題を乗り越えながら、8年後こういう形であってほしいというものを、市民の皆さんと共有し、みんなでそういう方向に向かってみんなで行こうという形ではないかと思っています。コロナもわかり、我々が経験したことのないような非常に厳しい状況にあるわけですから、それらも克服しながら8年後にはこういう形であってほしいという意味で、基本構想の部分はある意味、夢の部分も少しはあっていいのかなと思います。

また、NPO法人の代表者がいらっやらないという話がありましたが、こうして、各階層の方にお出かけいただいております。団体の形式にこだわらず、様々な分野の方から22名の委員の皆さまにお出かけたいただいております。それぞれのお立場、それぞれ一市民として出雲市に関わりになっている立場での率直なご意見を聞かせていただければと思いますし、皆様の後ろにはたくさんの方の関係の方がいらっやいますので、そういうお声を聞かせていただければいいと思っております。

それから、宍道湖の話、トキの話がありました。もちろん宍道湖は自然豊かな汽水湖で神西湖もあります。水質的に言うと環境基準を満たしていません。達成していないという状況は承知をしておりますし、先ほどおっしゃいました農薬の問題等、化学的な見地からご指摘を受けていることもあります。これも次の世代により良い形で、今ある自然を少しでも良くして引き継いでいきたい。そのときに行政が何をすべきなのかということも含め、市だけではありませんが、取組をしていければ良いかと思っております。

トキについては、一つのシンボルとして、種の保存のため分散飼育を行っておりますが、将来的にはトキが出雲平野の空を舞うという夢も持ちながらやっているわけで、そういう面ではその環境保全、環境保護のシンボリックな意味で佐渡のように自然界で放鳥できれば、それが出雲市の自然の豊かさを一つ象徴してくれば良いと思っております。出雲市だけが西日本で唯一トキの飼育をしているので、市民の方にしっかりアピールしながら市民の方が環境を考えていただく、行政として取り組んでいくというスタンスでやっていければと思っています。

## 山崎 英樹委員

資料2の基本方策について、「ともに創る」というのは誰のことを言っているのでしょうか。

### 事務局（杉原政策企画課長補佐）

「ともに創る」というのは、出雲市に関わるすべての人を思っております。ですから、出雲市に住んでいる方だけではなく、関係する方々、いわゆる関係人口、交流人口も含めて「ともに創っていく」ということです。

### 山崎 英樹委員

分かりました。ありがとうございます。

客観的で、誰にも責任がないような感じで「ともに」とついていると思いました。先ほど、どこのまちを見ても同じような意見もありましたが、夢であればもっと夢でないといけないのかと思います。夢を語るようなところではないかもしれませんが、現実を見据えすぎた計画になっているような気がしています。8年後同じ会議をしても、同じような課題がずっと続くのではないかと思います。意見です。

### 安喰 愛委員

私はスポーツ分野の方から出席していますが、島根県内のことは何となくわかりませんが、出雲市に限ったスポーツとなるとなかなか入りきれていない部分もありますので、携わっている体育施設やスポーツ分野の方に聞き取りをしていただき、どういったことがスポーツ分野では課題なのか調査していただきたいです。

また、ワーキングチームの内容を見せていただきましたが、文化スポーツ分野について上がっているのは1つ(D班)と思われます。今度、出雲市に新しい体育館もできますし、9年後には国民スポーツ大会、また、障がい者スポーツ大会がやってきます。出雲市では総合開会式があるので、そういったところで観光、自然などにもつながってくると思うのでしっかり調査をしていただきたいと思います。

今、部活動改革等が言われており、部活動が学校から離れていくところで出雲市さんがどう考えられているのかをこういった計画にも盛り込んでいただければいいかと思っております。

### 事務局（藤原総合政策部長）

先ほどスポーツ分野のお話をいただきました。スポーツ分野に限りませんが、様々な分野の様々なご意見を頂戴したいと思っております。

この後、構想を作る段階においてまず素案を作り、市民の皆さんにご意見を頂戴したいと思っております。中学校区単位で市民の皆さんに向けて公聴会を開催し、その場で様々な意見をいただきたいと思っております。

それから、Youtubeで市長の市に対する考え方を流しておりますが、市民の方からYoutubeを通し、SNS等で若い方の意見等も募集をしたいと思っておりますし、パブリックコメントでも募集をしていきたいと思っております。それぞれの分野ひとつひとつにご意見をいただくことは厳しいかもしれませんが、そういった形で市民の皆さんの意見を集約していきたいと思っております。

部活動改革について、こここのところ働き方改革の絡みもあり学校の先生が対応できない部分もあり、地区の中で子どもたちを育てていこうという方向に変わってきております。そういった視点を持ちながら取り組んでいきたいと思っております。

### 齋藤 茂子委員

私は日々、今日の生活をどうするのかという方たちや、海岸部の人たちの生活支援などに関わらせていただいている、先ほどのご意見よくわかります。できれば、地域の課題を見据えてその課題が私たちの中で共通認識できていると良いと思いつながりながら、皆様の意見を聞かせていただきました。

### 三吉 庸善会長

議題の2番目、計画の構成、基本理念、市の将来像及び基本方策につきましては、ご説明いただいた方針で、ここでご承認をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〈承認〉

### 三吉 庸善会長

今日、委員の皆様からたくさんの貴重なご意見をいただきました。事務局にて次回の基本構想の素案に反映できることはしっかり反映をしていただきますようお願いをいたします。

その他、ご意見ないようでしたら議題の3番目、市民満足度調査、及び、高校生アンケートの調査結果について、事務局から一括して説明をお願いいたします。

### (3) 市民満足度調査及び高校生アンケートの調査結果

#### 事務局（松浦政策企画課係長）

市民満足度調査及び高校生アンケートの調査結果 資料 3-1、資料 3-2、資料 3-3により説明

### 三吉 庸善会長

それでは、ご説明をいただきました議題の3番目、市民満足度調査、及び、高校生アンケートの調査結果につきまして、ご意見、ご質問ございましたらご発言をいただきたいと思っております。

### 河上 史子委員

高校生アンケートについてお伺いいたします。回収数のみ掲載されていますが、高校生は地域探求等の学習も取り組んでおり、地域の課題等にどれくらい関心度があるかなども興味を持つところですので、対象者数がどれくらいなのか分かれば教えてください。

#### 事務局（松浦政策企画課係長）

対象者数は、各学校に生徒数を確認させていただいており、1400名ほどでありましたが、集計の仕方については高校にお任せしておりました。当日欠席や、事情があつて来られなかった生徒さんなどおられたかもしれませんので、対象者1400名程度に対して1376名の回答数ですので、少々回答数が少ない状況です。

## 河上 史子委員

先ほどの回答、ほぼ全員ということで、ありがとうございます。

この度対象にした市内高校生の現在の思いや将来に対する思いなど、こういった意見が反映されることは非常に大切なことだと考えております。

また、島根大学学生の動画も拝見いたしました。若手職員の方の意見等も拝見しまして、これからを担う若者の貴重な意見を取り入れるということが大変重要だと思いましたが、高校卒業後の継続的な追跡調査等はされているのでしょうか。例えば、今度成人式が行われますが、そういったところでの新成人を対象とした出雲市への定住意向や、今後の出雲市に対する調査などはされているのでしょうか。教えてください。

## 事務局（安食総合政策部次長）

先ほどおっしゃいますように、卒業してからこちらに帰ってくる、いわゆるUターン者を出雲市として増やしていきたいと考えています。この高校3年生のアンケートを見ますと、Uターン希望の方、県外へ出て帰ってきたいというような声もあります。

実際に、市内の企業でもIT関連の企業や、若手の起業家がいらっしやり、そういったところに勤める方の意見も聞きながら調査をしていきたいと思っております。ただ、なかなか高校を卒業した方の後追いができないのですが、県の定住財団で調査を実施していますので、そちらの資料を見ながら、努めて参りたいと思っております。定住財団の調査も定期的にやっていますので、県含めて検討して参りたいと思っております。

## 福島 沙織委員

今のご意見に関連するお話ですが、高校生アンケートの調査結果を見ますと、4割は一度市外へ出たことを前提に考えていると言ってもいいと思います。私の夫もUターンで出雲に戻ってきたのですが、市外へ出たが戻ってくるという意向は持っているということで、結局一度は都市部へ出て出雲への思いや魅力、戻ってきた時の仕事の探し方等、そういった点を聞くのも今後必要になってくるのかなと感じました。

また、戻ってくるにあたり、私のように夫婦家族で戻ってくるというケースも多くあると思います。そういった場合、いわゆる嫁ターンであったり婿ターンであったり、その配偶者の意向というものも非常に重要になってくると思います。配偶者の地元に戻るにあたって、様々な葛藤や悩みもあると思うのですが、そういったところも丁寧に酌み取っていく。私のようにIターンの人を探してどういう思いだったのか、何が不安で課題をどう解決していったのかを酌み取っていく。今後、一度市外へ出て戻ってきたいと思っている高校生がこれだけ多い中でそういったところを丁寧に汲み取って、施策に反映していくということが必要と思われました。意見です。

## 事務局（安食総合政策部次長）

福島委員さんのご意見、大変大事なことでございます。そういった声を拾いながら市政の施策にも生かして参りたいと思っております。

おっしゃられますように、たくさんのご家庭、夫婦、あるいは子ども連れの方が出雲に転入なさってこられます。冒頭で副市長が申しあげましたように、社会増の中にはそういった方もたくさんいらっしやいますの

で、そういった声を聞きながら政策に反映して行くとともに、この計画にも反映をさせていきたいと思えます。

### **田邊 達也委員**

先ほどご説明がありましたニーズマップですが、地域と年代別でよく調べられているなと思って感心しました。

基本的なことをお伺いしますが、ここに網羅されたものが先ほどご説明ありました基本方策の柱になっていくと。そして、この基本方策で注目すべきは数値目標という言葉が載っているのですが、このニーズをこの基本方策に取り入れて、そして、8年後の数値目標をきっちりと載せていくというのが、今回お作りになる基本方策だと解釈してよろしいのでしょうか。

### **事務局（安食総合政策部次長）**

田邊委員さんのおっしゃる通りでございます。施策ごとに数字を設けまして、それに向かっていきたいと思っております。

これまでの未来図で言いますと、それぞれ戦略プロジェクトの中に数字を示しております。その数字を幾らにするかは、また皆さんと協議をさせていただきたいと思っておりますが、本日例で挙げているのはチャレンジという言葉を使っております。チャレンジする、そこに向かっていくという数字を示し、それを毎年の進行管理、KPIを設けて管理をしていくと思っておりますので、またそのあたりに関するご意見をいただければと思えます。

### **田邊 達也委員**

今回は若い方の意見も聞いて、非常に今風の言葉になったので、緊張感がないなどと申しあげたのですが、今のお話を聞いて、これだけのマップを作り、そしてこれを具体的な政策に盛り込んできちんとした数値目標が挙げられるならば、これは素晴らしい未来図になっていくのではないかなと思えました。

### **山本 富子委員**

高校生アンケートですが、今、平田高校の校長先生が数年後には学生の数がすごく少なくなると危機感を持っているとおっしゃっていました。

普通科の大社高校と平田高校、どちらが残るかという話もされており、唯一出雲市は人口増ということおっしゃったのですが、学生の数は本当に大丈夫なのでしょうか。

もう1点、義務教育の充実で不登校の学生がとても多いです。宍道高校の先生が、松江市にはフリースクールがいっぱいあるが、出雲市はどうしてないのかということをおっしゃっていました。そのあたりどうなのでしょう。

### **副市長**

社会増、外国人の方も含め、この5年、さらにその前の5年間、人口増を果たしているというのは事実でございます。ただ、中身の構成を見ると、当然のことながら少子高齢化の数字があります。多分、今の高校

生は1600人前後いると思いますが、去年生まれた子どもは1300人台ですので、その子たちがそのまま高校生になるとしたら当然のことながら若い世代が減っていきます。

そういった中、外から若い夫婦を呼び込み、出生数プラスアルファをいかに積み上げていくかにより高校生の数が増えていく可能性はあります。ただ、実数として出生数を見ると、今の0歳と18歳との子供の数を単純に比較すると数百人の差があるというのは事実でありますので、そこをいかに子育て支援に力を入れ、若い人たちが子供を産み育てやすい環境を作っていくか、子ども増やしていくかということが市政の大きな力を入れていく分野であり、全国同じような問題ではあります、大きな課題であると思っています。

また、不登校の話がありました。島根県は人口単位でいくと不登校が非常に多いという事実があります。それは厳然たる事実であります。出雲市には教育支援センターがあり、不登校対策をしている場所が3か所あります。旧出雲市内、平田、それから斐川。不登校のお子さんたちが、そういった場所で様々な指導を受けながら学校へ戻っていく。そういったシステムを持っていますので、必ずしもフリースクールということではなくて、学校現場とは少し離れた支援センターを使い、不登校のお子さんたちが学校に戻るための援助や応援をしているところです。

フリースクールは、民間で様々な思いのある方が半分ボランティアに近い形でやっていらっしゃると思います。多様な場があると良いかもしれませんが、現在出雲市はそういう場はありません。先ほど申しあげたように教育委員会の中で不登校対策としての、他の市よりも充実した取組をしていると思っております。以上、現在の状況も含めて、ご報告させていただきました。

### **山崎 英樹委員**

高校生アンケートにも、市民満足度調査にも「交通インフラの充実」というところが非常に多く目立っております。先日も報道でJRが本数を減らすということがありますし、バスも不便です。お年寄りはどうやって移動したらいいのかそういった課題が多々あるのですが、そういった点に関してどうお考えなのか教えていただけませんか。

### **事務局（藤原総合政策部長）**

交通を取り巻く状況というのは大変厳しいものがあると思っております。それぞれの地域において課題があると思っておりますが、それらを総合的に検討する会議を立ち上げております。公共交通のあり方自体、市全体の課題をそれぞれ集めながら、課題解決の方向にいくための協議会を立ち上げ、検討を始めたところです。

高齢者の問題や、買い物の問題、バスの便数など、様々な問題がありますので、それらを総合的に考えていきたいと思っております。お金をかければ解決すると思いますが、限られた財源の中で何ができるか、地域にとってどのような形がいいのかを今後検討していきたいと思っております。

ちなみに、この満足度の中で公共交通機関、バスの利用のしやすさが満足度下位項目になっています。点数を見るとマイナス34点。前回の平成24年度調査時点ではマイナス35点。点数的には、前回とほぼ変わっており、逆に言うと、前回と同じにしかなくなってないという結果ですので、少しでも満足度が得られる方向にできればと思っています。

## 山崎 英樹委員

そういった交通に関する協議会も立ち上がったということで非常に期待しております。

ここから意見ですが、今、出雲市としてDXに取り組まれている中で、今後はAI等を使った自動運転を見据えていけば良いのではないかと考えております。自動運転のバスが普及すれば、おそらく費用はそんなにかからず、より便利になりますし、全国には自動運転の特区を取って実証実験をしているところもあります。そういったところも積極的に取り組んでいけば、中山間地域の多いこの出雲市にとって非常にプラスになるのではないかなと考えております。

やはりバスや電車にしても、走っていることやどれだけ便利なのかを住んでいる人は知りません。何年か前、私が調べた中でルートも変わっていましたし、そういったことを知ってもらうこと、そして、そういったインフラ整備を新しい視点で整備していくことがこれからの時代に必要ではないかと思いました。

## 事務局（藤原総合政策部長）

おっしゃいます通り、新しい視点でその地域のニーズに合った形で公共交通を考えていくことは非常に大事だと思っております。先ほどご提案のあった自動運転や、スローモビリティなど、全国各地で様々な実証実験がされております。そういった具体的なものも例に取り入れながら、また参考にしながら考えていきたいと思っております。

## 山本 富子委員

バスや公共交通機関について、登下校の時間になると高校の下に車が並びます。ちょっと異様な光景だなと思いますが、やはり通学時間に合わせたバスの運行等もう少し充実していただくと良いと思います。

また、出雲空港に向かう大型バスががら空きのまま走っているのですが、私が秋田空港に行った際、乗り合いの小さいバスがあり、事前予約をしておく自分の行きたいところに乗り合わせて連れていってくれるバスがありました。そういった小回りの利くような交通機関もあれば良いと思いました。

## 事務局（藤原総合政策部長）

使い勝手の良い交通手段や時間帯は非常に大事だと思っております。どうしても出雲市も車社会ですので、車移動が中心かもしれませんが、一方で高齢者の方や学生の方は車移動というわけにはいかず、交通手段、時間帯も含めて検討すべきところはやっていきたいと思っております。

一方で、交通自体を取り巻く課題もたくさんあり、例えば運転手不足や経済的採算がなかなか取れないというような、そのような課題を総合的に考えながら取り組んでいきたいと思っております。

## 落合 のり子委員

外国人の方が増える中で、お勤めに行く場合には送迎のバスがありますが、自分たちの生活圏で買い物をしたい等、様々な公共施設とアクセスするための手段が乏しいという感じを受けます。外国人の方も含めて、この公共交通機関のことを検討していただけたら良いのかなと思います。

様々なサポートをしようと思っても、例えば交通手段が自転車しかないとなると、出雲市は大変広いので中心部にそのサービスがあったとしてもそこにアクセスできないこともあるかなと感じます。

## 事務局（藤原総合政策部長）

確かに、外国人にもやさしい公共交通機関というのは非常に大事なことだと思っております。公共交通の計画を作る中でももちろん考えていきたいと思ひますし、この総合計画の中でもきちんと念頭に入れながら進めていきたいと思ひております。

## 吉田 美智子副会長

どうしても生活バスが優先とは思っているのですが、観光客の方から必ず「最寄りのバス停はどこですか」という問い合わせがたくさんあります。

私たちは美術館、博物館ですが、次のスポットに回ってもらうために自家用車でないといけないような状況があり、どうしたらいいのか、美術館同士で連携ができないのかと思ひているところです。ちょっと周れる何か、そういったものも考えていただけるとありがたいです。かなりの頻度で問い合わせのお電話をいただきます。「出雲市駅からタクシーでお越しくださるのが一番短時間です。」とお伝えしておりますが、約2000円かかります。一応状況だけご説明をし、協議会が立ち上がったということですので、何かの参考になればと思ひ発言させていただきました。

## 副市長

今たくさん公共交通のお話いただきました。先ほど、部長が申しあげたように今年と来年にかけて、出雲市の公共交通のあり方について方向性を出すことにしておりますが、この問題は非常に難しい問題であります。先ほど、観光客のお話もありましたし、高校生、高齢者、それぞれニーズが違います。それを一つのルートで結ぶことは難しく一つの交通ではなかなか括りきれない。

一方、交通事業者は採算性の問題や運転手さんも含めて人材不足の問題があり、非常に奥の深い大きな課題があり、これからこの出雲市で住んでいただく外国人も含めて、住み続けていただくためには、何らかの形で解決策を見出さないといけないと思ひています。

新聞を見られた通り、この春からJR山陰本線の便数削減ということをしてJR西日本が提案されました。コロナ禍で経営が非常に厳しい中、JR山陰本線の昼間の便数を相当削減するというような提案が出されています。一方ではそういった事業者からの非常に厳しい提案も来ているという中で、我々も知恵を絞らなければなりません。

「乗って守ろう交通機関」昔、そんな言葉がありましたが、路線を開設してもなかなか乗っていただけない。それはニーズを把握してないからということもあると思ひます。

この問題に今たくさんご意見いただきましたが、非常に大きな問題であるということだけ補足をさせていただきます。

## 板垣 成二委員

今バスのお話が出ましたので、ちょっと話をさせていただきたいと思ひております。

副市長がおっしゃるように、出雲市では新たな交通計画を立てるということで、そこにも期待をしたいと思ひております。

私は、佐田町に住んでいます。佐田町も大変な少子高齢化が進んでおります。特に、高校が大きな課題だと思ひており、小中学校はスクールバスがありますが、佐田町に高校がありませんので、かつては佐田分

校もありましたが今はなくなり、出雲へ出かけるわけですが、仮にバスを利用するなら学割定期を使って、また駐輪代等々にて1人3万円程度かかります。子どもが2人いれば6万円になりますし、高校へ往復すると相当時間がかかります。

現実には、バスはほとんど空気を運んでいるような状況です。今は、ほとんど親が江南の駅まで車で乗せていかあるいは学校まで乗せていきます。かつて、何とか通学バスの補助金ということができないかと話し合いをしましたが、実際、子どもが部活をすればなかなかバスに乗れないため、頓挫しております。

なかなか簡単な話ではないと思っており、これは佐田だけの問題ではなく、解決していく必要があると思っております。

それから、皆さんのお話を聞きながら様々な課題があると思いつつ聞かせていただいたところですが、やはり課題を解決するためにはまずはいろいろな情報材料を収集しなければいけないと思っております。今日、山根委員がおっしゃった農業の関連の後継者問題も非常に大きな課題を抱えていると思っておりますので、例えばそういうところへヒアリングをするなど、あるいは市役所の中に農業政策もありますので連携をしながらできるだけ声を拾い上げていく作業も必要です。当然、山根委員さんも承知のうえていらっしゃいますので、またご意見を聞かせていただくことになろうかと思っております。

また、第1回目の資料を見ましたが、主要統計という人口をいろいろと分析したものが載っておりました。今日も副市長から人口構成について説明があったところですが、もう少し詳しいものをここへ載せていただくといいかと思っておりました。一番問題なのは人口の二極化だと書いてありますが、とてもこの資料では人口の二極化は分析できないと思っております。

佐田、多伎、湖陵は、現在も1つの塊としてありますが、例えば出雲市には全部で43のコミセンがあります。ところが、平成17年の新しい出雲市が誕生した時の3月時点と今年の3月時点と比較すると、43のコミセンのうち人口が増えているのは、12の地域です。残りは人口が減っております。旧出雲市でいうと、コミセンが16ありますが、旧出雲全体は増えていますが、16のコミセン地域が全部増えているかというところではない。例えば、ある地域では30%以上の人口が減っております。特に旧出雲でいっても、南部地域は人口が減っております。例えば斐川で20%以上増えたところが2つあります。それから10%以上増えたのが1つ。ということで、3つ増えています。斐川の残りの地域は減っております。もう少し細かいところを突っ込んで分析して見ていかないと、なかなか人口の二極化ということと言っても、答えが出てこないと思っておりますので、その辺りを一歩進めて見ていただければと思います。旧市町単位、旧市町で分けた分析は、なかなか真実が見えてこないこととなります。大雑把に周辺部は減っているという感覚はあると思っておりますが、事実から出発して課題解決していくことを考えていく必要があると思っておりました。

### 三吉 庸善会長

ただいまご説明をいただきました、市民満足度調査及び高校生アンケートにつきましても大変貴重なご意見をたくさんいただきました。次回の基本構想の素案に反映できるところはしっかり反映させていただきたいと思っております。

では、先を急ぐようでございますが、板垣委員さんの質問は後ほどお答えをいただくこととしまして、4番目その他に移りたいと思っております。事務局からご説明をお願いいたします。

## 4 その他

### 事務局（杉原政策企画課長補佐）

- (1) 委員からの意見 資料 1 から説明
- (2) 今後の策定スケジュール

### 三吉 庸善会長

どうもありがとうございました。それでは若干時間が余っておりますので、何でも結構です。

### 田邊 達也委員

議会、行政で大変ご苦勞なさっている2つの問題を、是非とも盛り込んでいただきたいと思います。それは、出雲縁結び空港の国際定期便です。これの就航を是非とも今のうちから明確に上げていただきたい。

それから、やはり今の少子化の問題や、人口の問題があります。出雲には医療関係の学校はたくさんありますが、工科大学の誘致をめざしています。ぜひともこの2つを盛り込んでいただいて、難しいかもしれませんが、夢のある若い人たちに後世をつなげるような、そういうものも上げていく必要があると思いますので、是非ともご検討いただきたいです。

### 副市長

板垣委員さんから二極化のお話がありましたので少しお答えします。もちろん詳細な分析、人口動態の分析が必要だということで、この中山間地域の二極化の問題をどう是正し解決していくのかということで、市の内部で横断的に、自分がトップで会議体を立ち上げました。今、43コミュニティセンターの地区がありますが、その中の県の中山間地指定、いわゆる過疎、辺地、条件不利地は、17地域あったと思います。その17地域は5年間で人口が5000人減っています。

中山間地域と言われる海岸部含めた条件不利地の人口動態をしっかりとつかまえ、対策を練っていかねばならないと思っています。総合振興計画と別の次元で取組を進めておりますが、これも施策に反映できるような答えを用意していかなければならないと思っています。そのことについては、こうしたら中山間地域の人口が増えるという処方箋はないと思っています。なぜ減っているかという課題を1つずつ抽出し、その課題に対して政策や処方箋を当てていくことで、課題を1つずつ潰していくしかないという地道な作業になろうかと思っています。

田邊委員さんから2つの大きな課題をいただきましたが、出雲空港の国際定期便の話は数年前から動いておりました。かつては韓国ソウル便、上海便がありましたが、鳥取県に負けたということで断念してしまったという経緯がありました。改めて国際定期便化のため、鳥根県が本腰を挙げていただき交渉をしていますが、残念ながらこのコロナ禍で止まっているというのが事実です。2、3年前に、国内線だけで100万人の実績を出した出雲空港ですので、地方空港で100万人という空港は、全国的にも珍しいと思っています。それだけポテンシャルがあるので、新たな国際定期便の開通に向けて、新型コロナウイルス感染症という非常に大きな障害がありますが、新型コロナウイルス感染症が開ければ動けるのではないかなと思っています。現に、出雲空港には東側に待機場所がありますが、あれはもともと国際線の待機スペースです。国内線しかないということ、国内線が非常に多いということであの場所も使っています。今、増築、拡張に向

けた計画が県でスタートしておりますので、国際定期便化に向けた動きがあるということだけをご承知おきいただきたいと思えます。

高等教育機関の誘致は、随分前から様々な形で情報収集をしています。一方で、先ほどあったように少子化の中で大学経営というのは非常に厳しいです。このコロナ禍で、東京一極集中から地方大学への分散という動きもありますし、大きなキャンパスではなく、小さなキャンパス、リモート含めて、テーマを絞った地方のキャンパスを作り、従来の考え方ではない地方への高等教育機関の移管もあるので、しっかりアンテナを張り、取組を継続していきたいと思っています。

### 萬代 輝正委員

振り返るようですが、基本理念のところ、多分皆さんが納得しないとスタートできないと思えます。「市民が主役のまちづくり」「地域特性が光るまちづくり」「自立するまちづくり」は、今までも何回も聞いたことがある部分です。出雲力は新しい言葉かもしれませんが、コロナ禍で様々変化している状況の中、もうちょっと魅力的な理念の言葉を掲げていただくと後が続きやすいのかなと思っています。できれば、皆さんもそう思われるのであれば、基本理念の部分は、頭で覚えられるようなさっぱりとした形に落とし込んでいただけるとありがたいです。先ほどから聞いていると、「住んでいいところ」「迎えていいところ」「帰っていいところ」というイメージがあるのですが、もうちょっとすっきりと、みんなで共有できる言葉に落とし込んでいただくとありがたいです。よろしくお願いします。

### 副市長

大変大事な、根本の話を議長さんからいただきましたが、実はこの3つの理念というのは、合併の際に「出雲の国づくり計画」というものを作り、そこから綿々と生きている理念です。今の出雲市は、2度の合併を経て現在の形になりました。もう16年、17年が経ちましたので、だんだん忘れられてきた部分があるかと思いますが、この3つの理念が最初に提案申しあげた普遍的なものだということは、歴史文化の異なる7つの市町が一緒になり、3つの理念で、1つの市としてやっていこうということで意志を確認した理念でした。この理念は17年経ちますが、やはり市政の根幹に据えるべき理念ではないかなということで、こういう形にさせていただいているということでございます。

基本構想の総合計画の根っこの部分ですので、いろいろなご意見があれば聞かせていただきたいと思えます。これを置いて次のステップに進むということは我々としても本意ではありませんので、基本理念、将来像も含め、もし本日のところでご意見できなかったことがあれば、改めて率直なご意見をお聞かせいただいたうえで、次のステップに進みたいというのが、私どもの今の正直な気持ちであります。各界から出席していただいていますので、これでいいと言っただけならば、それはそれでいいですが、出雲力という新しい言葉も使いましたので、その部分も含めて忌憚のない意見をいただきたいなというふうに思えます。

### 萬代 輝正委員

今回の市民満足度調査も地域単位でやっていますが、合併してもう15年経っており、出雲の中に2市5町それぞれ特色を持つというのは当然の話です。しかし、出雲が1つのまちで頑張っていくというイメージの中で言えば、合併の時に掲げてきたものは大切にしないといけない。とはいえ、今後進めていくうえで、旧何

町、旧何市だということはないに進んでいけることが、次世代の子どもたちにとって出雲が1つのまちで、ともに頑張れるエリア設定が良いのかなという思いがあります。

また、いろいろなご意見を聞きながら進めていければと思いますのでよろしくお願いします。

### **三吉 庸善会長**

最後にご意見がありましたらお聞かせいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<意見なし>

### **三吉 庸善会長**

それでは、議案の審議は以上で終了させていただき、事務局に進行をお返しいたします。

### **事務局（安食総合政策部次長）**

会長、そして委員の皆様ありがとうございました。

今後、総合振興計画策定に向け、ご審議いただいた内容やその他計画に関する事、本日はお話できなかったこと、何でも構いませんので前回と同様にご意見をお寄せいただきたいと思います。様式にこだわることなく、何でも結構ですので忌憚なくいただきたいと思っております。メール・FAX等で構いませんので、年明けの1月14日までに事務局にお願いしたいと思っております。

次回の第3回総合計画審議会は、来年の2月8日午後に予定しております。お忙しいとは存じますが、ご予定のほどよろしくお願い申し上げます。

私の方から事務連絡は以上でございますので、本日はこれで終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。